

算数科学習指導案

平成 28 年 6 月 17 日（金）第 5 校時

3 年 A 組 指導者 石井 孝幸

授業の視点

身近な事象を棒グラフに表す学習において、前時の学習で学んだグラフに必要な読むポイント（縦と横の軸、グラフの項目の配列、原点と目盛りや単位、表題）について児童が確認する場を設定し、見通しをもって課題解決に取り組むとともに、集団解決の場で児童がかいた棒グラフをわかりやすさ、見やすさについて比較・検討することによって、児童が自ら課題を解決し、棒グラフをかくことができるであろう。

1 単元名 「ぼうグラフと表」

2 考察

(1) 教材観

本単元は学習指導要領第 3 学年算数の以下の内容を受けて設定したものである。

「D 数量関係」

(3) 資料を分類整理し、表やグラフを用いて分かりやすく表したり読み取ったりすることができるようにする。

ア 棒グラフの読み方やかき方について知ること。

身近な事象について数量を調べて棒グラフや二次元の表に整理することは事象の傾向や特徴をわかりやすく把握するために有効な方法である。本単元の学習で児童は資料の傾向や特徴を容易に把握することができ、算数のよさや有用性を感じることができるようになる。また、事象を数的に処理していこうとする児童の意欲を高めることができる単元であると考えられる。

児童は 1 学年でもものの個数について絵を用いたグラフを読み取ったり、グラフに表したりすることを学習し、2 学年では簡単な事柄の表やグラフを読み取ったり、表やグラフに表したりすることを学習している。

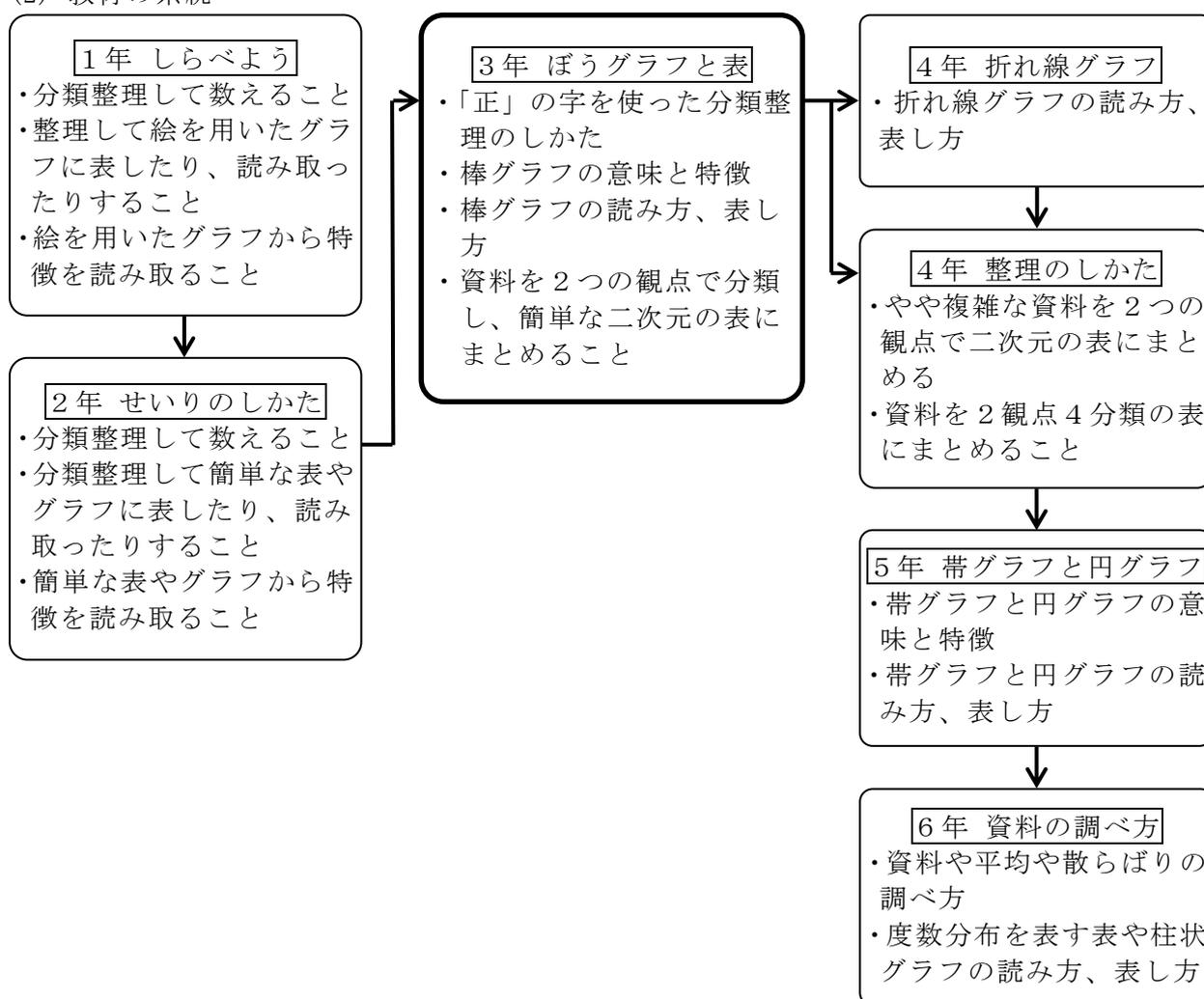
本単元では 1・2 学年の学習を踏まえ、資料を分類整理して棒グラフや二次元の表に表したり、読み取ったりすることを学習する。事象について落ちや重なりがないように調べて表にする方法を理解するとともに、わかりやすく表現する方法として棒グラフを導入していく。棒グラフの読み方の学習では数量を正確に読むことはもちろん、資料の特徴を示すために数量の大きい順に項目を並べたり、事象の様子がわかるように数量を時系列の順に並べたりするなどの工夫についても考え、グラフを基に様々なことが考察できるよさを味わえるようになる教材である。

棒グラフをかく学習では手順をしっかりと理解し、必要な事項についてもれなく正確に表すことができるようにする。また、グラフをかく際には資料の数量とグラフを表す用紙の大きさなどから 1 目盛りをいくつにするかを考えられるようにする。グラフのよさと表し方を理解することで身のまわりの事象について調べ、整理して表そうとする態度を育てていくことが大切であると考えられる。

また、2つの観点による二次元の表も扱い、整理のしかたの理解を深めていく。資料を整理するよさを味わうことで自分で観点を決めて資料を分類整理する算数的活動へ関心・意欲を高めていく。この過程では児童自身が捉えた課題に基づいて自分なりに見通しをもって分類整理に取り組んでいくことが重要である。

様々な資料について目的に応じた統計的な処理をすることによって状況を判断し、見通しをもって対策を立てたり、問題解決したりすることは今後ますます重要になる。棒グラフや二次元の表の活用はこの課題に答えるための手段の1つである。そのため算数、他教科での活用はもとより、日常の生活のなかでも活用できる力を身に付けることができる教材である。

(2) 教材の系統



3 目標

様々な日常の事象を調べてわかりやすく棒グラフや表に表し、事象の状況や特徴を考察できるようにする。

4 評価規準

	おおむね満足できる状況
算数への関心・意欲・態度	資料を分類整理し、棒グラフや二次元の表に表すことよさを味わい、日常の様々な事象を棒グラフや二次元の表に表して調べようとする。
数学的な考え方	身近な事象について資料を分類整理し、棒グラフや二次元の表に表すことによって資料の特徴を考察することができる。
数量や図形についての技能	資料を分類して表に整理したり、棒グラフや二次元の表に表したり読んだりできる。
数量や図形についての知識・理解	棒グラフや二次元の表の読み取り方、かき方がわかる。

5 指導方針

- ・児童が学びの連続性をもてるようにするため、1・2年生の資料を分類整理して特徴を読み取る学習を活用しながら本単元「ぼうグラフと表」の学習を導入し、系統性を踏まえたスパイラルな学習を展開する。
- ・本単元の学習の必要性を味わったり、学ぶ意欲・関心を高めたりできるようにするため、資料を棒グラフや二次元の表に表す学習では必然性のある具体的な事象を取り上げる。
- ・資料を集計する際には「正」の字を使って整理すると便利であること、資料の落ちや重なりをなくすには表に合計欄を設けるとよいことについて実感を伴って理解できるようにするため、体験の場を意図的に設定する。
- ・資料は棒グラフや二次元の表に表すと特徴がわかりやすくなることを認識できるようにするため、元の資料と棒グラフや二次元の表とを比較する場を設定する。
- ・グラフが表す意味を十分に理解できるようにするため、グラフの読み方の学習ではグラフの読むポイント（縦と横の軸の意味、項目の配列、原点と最小目盛りの大きさや単位、表題）に着目して棒グラフを読む活動を取り入れる。
- ・棒グラフのかき方の学習では見通しをもってかけるようにするため、グラフの読み方の学習で学んだグラフの読み方のポイント（軸、項目の配列、原点と目盛りや単位、表題）について確認する場を設定する。
- ・グラフをかく活動では適切な目盛りで棒グラフをかけるようにするため、グラフ用紙の目盛りに合わせて1目盛りの数値を考える問題も取り上げる。
- ・二次元の表の学習では落ちや重なりのない二次元の表をかけるようにするため、2つの観点の合計が同じになることを表で確認しながら理解できるようにする。
- ・児童が「ぼうグラフと表」の学習について充実感、達成感を味わえるようにするため、見通しをもつ場、自力解決の場を設定する。
- ・各授業で課題解決の「見通し」をもてるようにするため、自力解決の前に既習の知識・技能を確認したり、児童の実態に合った算数的活動の場を設定したりする。
- ・各授業の集団解決の場で児童が考えを広げたり、深めたりできるようにするため、ICT（書画カメラ）を活用し、児童のノートの記述を生かした意見交換の場を設定する。
- ・児童が自分自身で主体的な学びを意識できるようにするため、各授業の「めあて」「まとめ」は児童の言葉を用いる。

- ・各授業の終末の「振り返り」の場で1単位時間の学びを深められるようにするため、学んだことをどのように生かすかを書くよう助言する。
- ・児童のもつ特性により、授業への取組に課題のある児童がいるので、課題把握、自力解決、集団解決での発表の場で戸惑うことや学習ルールを守れないことがあった場合は、落ち着いた学習環境を整えるため、特性に応じて個別の支援・指導を行う。

6 校内研修とのかかわり

本校では1単位時間の学習活動を「めあて」「見通し」「自力解決（自分の考え）」「集団解決（友だちの考え）」「まとめ」「振り返り」をキーワードとして組み立てている。6つのキーワードによる学習活動について教師が共通理解を図り、日常の授業として実践していくことで、既習の知識・技能を活用する規則的な学習活動が本校において常に展開され、児童に学び方が身に付くものとする。

6つのキーワードによる学習活動に児童が自ら進んで取り組めるようにするには児童が自ら「めあて」を明確にもつことが必要である。そして、課題解決の「見通し」をもつ場面において児童の実態に合わせて既習の学習を振り返ったり、既習の知識・技能を活用するような算数的活動を設定したりすることが必要である。本単元では児童が「めあて」を共有した後、「見通し」として1・2学年で学習した絵を用いたグラフや一次元の表を確認しながら棒グラフや二次元の表の意味や読み方を導入する。また、棒グラフをかく際には本単元で学習する棒グラフの意味や表し方のまとめを確認してからグラフに表す活動に取り組む。既習事項を常に振り返ったり、確認したりする活動を日常の学習に取り入れることで学び方の定着を図りながら、主体的に課題解決を図れるようにする。

ところで、課題解決のために既習の学習を振り返ったり、確認したりする場面で児童が手立てとするのはノートである。そのため、ノートはわかりやすく、見やすいものである必要がある。そこで、本校では発達段階に応じて6つのキーワードについて色分けをしてノート指導を行っている。3年生では「めあて」「見通し」「自力解決（自分の考え）」「集団解決（友だちの考え）」「まとめ」の項立てを青色とし、正誤の○付けや訂正と区別しながら、簡素な中にもメリハリをつけている。

また、「集団解決」の場で児童は自分と友だちの考え方を比較・検討し、新しい考えやよりよい考えをノートに記録し、児童は考えを広げたり、深めたりするものとする。本単元では資料を棒グラフに表したり、二次元の表に表したりする活動で自分と友だちの考えを比較・検討し、よりよい考えを選択してノートに記録する。よりよい考え方をノートに記録することが児童一人一人の課題解決の結果であり、学びであるとする。

授業の終末で「めあて」に対して「まとめ」を書くことで本時の課題解決に納得し、「振り返り」を書くことで本時の学びを深めるものとする。

児童が自ら「めあて」をもって課題解決のために既習事項をノートで振り返ったり、確認したりして「見通し」をもちながら「自力解決」していくこと、「集団解決」で自分と友だちの考えを比較・検討してノートに記録し自らの考えを広げたり、深めたりすること、授業の「まとめ」「振り返り」を書いて学びを深めることは、本校の研究副主題「習得した知識・技能を活用する力をはぐくむノート指導の工夫」の実践であり、「自ら課題を解決する児童の育成」を追究するものであるとする。

7 指導と評価の計画

時	ねらい めあて まとめ	学習活動	支援及び留意点	観点 評価項目(方法)
1	<p>身近な事象について、設定した項目に基づいて資料を分類整理し、処理するよさを味わおうとする。</p> <p>しりょう（あそびのしゅるいと人数）を表にすると、どんなよいところがあるだろう。</p> <p>表にまとめると分かりやすくなる。</p>	<p>様々な遊びが書かれたカードを興味をもって整理する。</p>	<p>・整理する必要性をもてるようにするため、様々な遊びのカードをランダムに並べて課題提示する。</p> <p>・遊びの種類と人数を数える際には落ちや重なりがないようにするため、「正」の字を使って数える方法を示す。</p>	<p>関 身近な事象について調べる活動を通して分類整理するよさを感じ、進んで処理しようとする。</p> <p>（発言・観察）</p>
2	<p>棒グラフの仕組みを知り、棒グラフを読み取ることができる。また、棒グラフの工夫、棒グラフで表すよさを理解する。</p> <p>ぼうグラフのよいところはどんなところだろう。</p> <p>ぼうグラフは、多い、少ないやじゅんいが分かりやすい。</p>	<p>棒グラフの意味や読み方を理解し、棒グラフの特徴を読み取る。</p> <p>項目の順序を分かりやすく並べ替え、工夫しながら棒グラフの読むポイントを確認する。</p>	<p>・棒グラフについて理解できるようにするため、棒グラフの用語や読み方をしっかり押さえる。</p> <p>・棒グラフの工夫について理解できるようにするため、目盛りや度数の違う棒グラフを比較する場を設定する。</p>	<p>知 棒グラフの意味や読むポイントを理解している。</p> <p>（発言・ノート）</p>
3 本時	<p>棒グラフの表し方のポイントに基づいて表を棒グラフに表すことができる。</p> <p>表をぼうグラフで表すには、どうかけばよいだろう。</p> <p>ぼうグラフのかくポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たてのじく、よこのじくをきめる。 ・こうもく（ようきのしゅるい）は多い方からじゅんにかく。その他はさいごにかく。 ・0、めもり、たんいをきめる。 ・表題をかく。 	<p>グラフの読み方の学習で学んだ棒グラフの読むポイント（軸、項目の配列、原点と目盛りや単位、表題）を基にして資料を棒グラフで表す。</p>	<p>・課題解決の見通しをもてるようにするため、グラフをかく前に前時で学んだ棒グラフの読むポイント（軸、項目の配列、原点と目盛りや単位、表題）について児童が確認する場を設定する。</p>	<p>技 棒グラフの読むポイントを生かして棒グラフをかくことができる。</p> <p>（観察・ノート）</p>

4	<p>資料を見やすい棒グラフに表すことができる。</p> <p>グラフ用紙の大きさに合わせてぼうグラフをかくにはどうしたらよいらろう。</p> <p>ぼうグラフは、グラフ用紙の大きさを考えて、1めもりの数を考えてかく。</p>	<p>資料の最大値やグラフ用紙の目盛りをもとに1目盛りの大きさを考え、棒グラフに表す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・分かりやすく、見やすい棒グラフをかきけるようにするため、グラフ用紙の目盛りに合わせて1目盛りの数値を考える問題を取り上げる。 	<p>技資料の最大値とグラフ用紙の大きさを基にしてグラフの1目盛りの大きさを考えて棒グラフをかくことができる。</p> <p>(観察・ノート)</p>
5	<p>横向きの棒グラフを読み取ることができる。また、時系列の順に表した棒グラフのよさを理解する。</p> <p>ぼうグラフのとくちょうはどんなところだろう。</p> <p>ぼうグラフは、よう日、時間のじゅんにならべるとわかりやすいものがある。</p>	<p>横向きの棒グラフや時系列に並んだ棒グラフを読み取り、横向きの棒グラフや棒グラフの工夫について理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・既習のグラフとの違いに気づけるようにするため、課題把握後に既習の棒グラフを提示する。 ・目的に応じて棒グラフの順番が時系列になることを理解できるようにするため、時刻、月、年などの時系列の例をあげる。 	<p>知横向きの棒グラフや項目が時系列に並べられた棒グラフの読み方やよさを理解している。</p> <p>(発言・ノート)</p>
6	<p>一次元の表を基に二次元の表をつくり、資料の特徴を読み取ることができる。また、一次元の表と比較し、二次元の表のよさを捉えることができる。</p> <p>全体のとくちょうのもとめるにはどうしたらよいらろう。</p> <p>表をまとめて、全体の合計のもとめると、全体のとくちょうがわかる。</p>	<p>一次元の表を基に二次元の表を作り、資料の特徴を読み取る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・落ちや重なりのない二次元の表のよさを捉えられるようにするため、2つの観点の合計が同じになることを確認する。 ・目的に合った表を作成できるようにするため、二次元の表のよさに着目して資料の考察をするように促す。 	<p>考資料を二次元の表にまとめ、資料の特徴を考察している。</p> <p>(発言・ノート)</p>

7	<p>棒グラフや二次元の表を用いて基本的な練習問題を解くことができる。</p> <p>れんしゅう問題をとくには学んだことのどれをつかえばよいでしょう。</p> <p>ぼうグラフや表で問題がとける。</p>	<p>棒グラフや二次元の表を用いて基本的な練習問題を解いて、習熟する。</p>	<p>・戸惑う児童がいた場合はノートの振り返るページについて助言する。</p>	<p>技 棒グラフを正しく読み取ったり、棒グラフに表したりすることができる。</p> <p>二次元の表に表すことができる。</p> <p>(発言・ノート)</p>
8	<p>自分で調べたことを二次元の表や棒グラフに表すことができて、表やぼうグラフでどのように表したらよいでしょう。</p> <p>とくちょうがわかりやすいぼうグラフをどんどん使おう。</p>	<p>自分で調べたいことを決めて、調べたことを二次元の表や棒グラフに表す。</p> <p>作った棒グラフから特徴を見つける。</p>	<p>・計画的に資料を準備できるようにするため、事前に興味あることについて調べよう助言する。</p> <p>・調べる内容、方法、対象については実現可能となるよう助言する。</p> <p>・目的に合った表や棒グラフの表し方について助言する。</p>	<p>関 調べたいことを自ら考え、調べた結果を表や棒グラフに意欲的に表している。</p> <p>(観察・ノート)</p>
9	<p>身近な事象について表された二次元の表と棒グラフを照らし合わせながら資料をまとめ、事象の傾向や特徴を読み取ることができるようにする。</p> <p>表とぼうグラフをしあげるには、どこを見ればよいでしょう。</p> <p>表とぼうグラフを同じし点で見比べると、問題がとける。</p>	<p>身近な事象について表された二次元の表と棒グラフを照らし合わせながら資料をまとめて特徴について考察する。</p>	<p>・事象の傾向や特徴を読み取れるようにするため、資料をまとめる際には二次元の表と棒グラフを比較するよう助言する。</p>	<p>考 身近な事象について表された二次元の表と棒グラフを照らし合わせながら資料をまとめ、事象の傾向や特徴を読み取ることができる。</p> <p>(発言・ノート)</p>

8 本時の学習

- (1) ねらい 棒グラフの読むポイントを生かして棒グラフをかくことができる。
- (2) 準備 教師：「飲み物のようきと数」の問題文と表（提示用、児童用）、グラフ用紙（児童用）、前時の学習の棒グラフ「しせつで遊びたいこと」（提示確認用）
「かりた本の数」の問題文と表（提示用、児童用）、グラフ用紙（児童用）、
書画カメラ、プロジェクター、黒板掲示用スクリーン
児童：定規、のり、はさみ

(3) 展開

学習活動 ・予想される児童の反応	時間	指導上の留意点	評価項目														
1 本時の問題把握																	
<p>問題</p> <p>右の表は、さち子さんの家で1週間に出たしげんごみのうち、のみ物のようきを調べ、数をしゅるいべつに表したものです。ぼうグラフに表しましょう。</p>		<p>飲み物のようきと数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>しゅるい</th> <th>数(こ)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ペットボトル</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>びん</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>アルミかん</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>スチールかん</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>45</td> </tr> </tbody> </table>	しゅるい	数(こ)	ペットボトル	14	びん	9	アルミかん	11	スチールかん	5	その他	6	合計	45	
しゅるい	数(こ)																
ペットボトル	14																
びん	9																
アルミかん	11																
スチールかん	5																
その他	6																
合計	45																
<ul style="list-style-type: none"> 今日の勉強は棒グラフをかくことだな。 どんな棒グラフができるかな。 	3分	○児童が問題把握していることを確認するため、容器の種類と本数に着目していることを児童に確認する。															
2 本時の課題把握 (めあての設定)																	
<p>めあて</p> <p>表をぼうグラフで表すには、どうかけばよいだろう。</p>																	
<ul style="list-style-type: none"> 棒グラフはどこからかくのかな。 	2分	○棒グラフをかく手順やポイントに着目できるようにする。															
3 課題解決への見通しをもつ																	
<p>見通し</p> <p>ぼうグラフの読むポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> たてのじく、よこのじくを見る。 こうもく（ようきのしゅるい）のじゅんばんを見る。 0、めもり、たんいを見る。 表題を見る。 																	
<ul style="list-style-type: none"> 棒グラフの読むポイントを参考にすると、かけるかな。 		○児童がぼうグラフの読むポイントを活用することに自ら気づけるようにするため、「算数の学習で大切なことは何か」を問い、既習のノートを見返すことができるよう促すととも															

<ul style="list-style-type: none"> 棒グラフの読むポイントでは項目の配列は多い順になっていたな。 メモりの数があると読みやすかったな。 		<p>に、既習のノートを見返す習慣化を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 戸惑っている児童には、棒グラフの読み方から棒グラフをかくポイントを見出せるようにするため、前時までの授業のノートを確認する際、机間巡視にて棒グラフに必要な事項は何かを問いながら個別に支援する。 児童が前時までのノートを見返して気づいたことを確認する際には、棒グラフの読み方の授業で使った棒グラフを黒板で提示する。 	
<p>4 課題への自力解決</p> <ul style="list-style-type: none"> 見通しを基にして、棒グラフをかいてみよう。 一番多いのが 14 こだから、メモりは 1 つずつかぞえればよいな。 ペットボトル、アルミカン、びん、スチールカンの順だな。 その他は最後だったな。 	9 分	<ul style="list-style-type: none"> 棒グラフをしっかりとかけるようにするため、棒グラフを読むポイントを確認しながらかくよう助言する。 戸惑っている児童には、個別の支援にて棒グラフを読むポイントを一つずつ確認し、助言する。 棒グラフを早くかきあげた児童には棒グラフの読むポイントをしっかりと生かしたか、棒グラフの上端や下端までしっかりと塗れているか確認するよう促す。 	<p>技棒グラフの読むポイントを生かして棒グラフをかくことができる。 (観察・ノート)</p>
<p>5 課題への集団解決 (意見交流)</p> <ul style="list-style-type: none"> 私の棒グラフを投影したい。 友だちと同じ棒グラフがかけた。 棒グラフは多い順に項目をならべているな。 棒グラフの塗り方にムラがないな。 	8 分	<ul style="list-style-type: none"> 児童の活躍を促すため、児童の棒グラフを ICT (書画カメラ) を使って提示する。 棒グラフの読むポイントを生かして、分かりやすく、見やすい棒グラフがかけたかどうか確認する場面では、発表者以外の児童から意見を聞くことによって、児童の主体的な課題解決を促す。 投影された棒グラフを見て、自分の棒グラフを見直し、必要がある場合は赤色で訂正するよう促す。 	
<p>6 本時の学習のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> 本時で学んだことをまとめる。 	4 分	<ul style="list-style-type: none"> 本時のめあてに対してまとめ、グラフのかくポイントを確認する。 児童の言葉を用いてまとめるようにし、達成感を味わい、学習意欲を高められるように 	

		する。													
<p>まとめ</p> <p>ぼうグラフのかくポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たてのじく、よこのじくをきめる。 ・こうもく（ようきのしゅるい）は多い方からじゅんにかく。その他はさいごにかく。 ・0、めもり、たんいをきめる。 ・表題をかく。 															
7 本時の学習の振り返り		○本時の学習と自分の学びについて振り返り、日常生活との結びつきを考えてかくよう促し、本時の学習の深まりを図る。													
<ul style="list-style-type: none"> ・棒グラフの読むポイントを使ったら棒グラフがかけたので、表見つけたら、棒グラフにしてみよう。 ・棒グラフを書くときは隅までしっかり塗って、見やすくしよう。 	5分	○数名の児童が発表し、共有を図る。													
8 練習問題への取組															
<p>問題</p> <p>次の表は、じゅんさんたちが1か月間に、図書室からかりた本の数です。ぼうグラフに表しましょう。</p>		<p>かりた本の数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>名前</th> <th>本の数(さつ)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>じゅん</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>はな</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>はるき</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>まなみ</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>24</td> </tr> </tbody> </table>	名前	本の数(さつ)	じゅん	8	はな	5	はるき	7	まなみ	4	合計	24	
名前	本の数(さつ)														
じゅん	8														
はな	5														
はるき	7														
まなみ	4														
合計	24														
<ul style="list-style-type: none"> ・棒グラフの書くポイントを使えば、しっかりかける。 ・色ムラなくグラフをかこう。 ・めもりの数え間違えをしないようしよう。 	8分	<p>○基本的な練習問題を解いて、習熟を図る。</p> <p>○ICT（書画カメラ）を用いて児童がかいた棒グラフを提示して答え合わせをする。</p> <p>○「かりた本の数」のグラフが早くかけた児童には補充問題「算数スキル58、59ページ」に取り組むよう指示する。</p> <p>○戸惑っている児童には「まとめ」を1ずつ確認しながら棒グラフをかくよう机間巡視にて個別に促す。</p>													
9 次時の学習への導入	2分	○次時の学習への動機付けを図る。													

9 板書計画

6月17日(金) P56

問題	表	前時の学習の棒グラフ「しせつで遊びたいこと」	まとめ	問題	表
「容器の種類と本数」					「かりた本の数」
めあて		見通し	ふりかえり		

(移動黒板：プロジェクター投影)

自分の考え

友だちの考え

グラフの投影

- ・「容器の種類と本数」
- ・「かりた本の数」

No. 月 日
6月17日(金) P56

問題

右の表は、さち子さんの家で1週間にだしたしげんごみのうち、のみ物のようきを調べ、数をしゅるいべつに表したものです。ぼうグラフに表しましょう。

飲み物のようきと数	
しゅるい	数(こ)
ペットボトル	14
びん	9
アルミかん	11
スチールかん	5
その他	6
合計	45

めあて

表をぼうグラフで表すには、どうかけばよいらう。

見通し

ぼうグラフの読むポイントをつかて、ぼうグラフをかく。

No. 月 日

まとめ

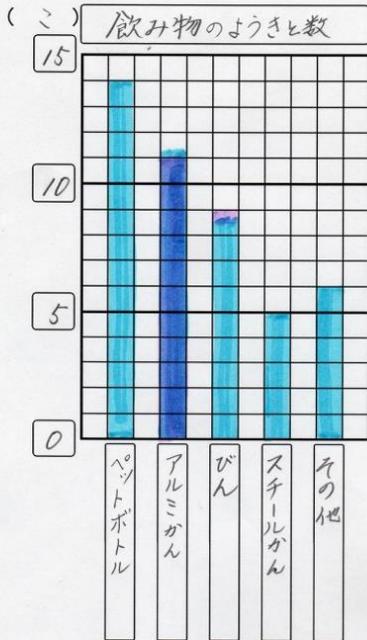
ぼうグラフのかくポイント

- ・たてのじく、よこのじくをきめる。
- ・こうちくは、多い方からじゅんじょにかく。その他はさいごにかく。
- ・0、めもり、たんいをきめる。
- ・表題をかく。

ふりかえり

ぼうグラフの読むポイントとかくポイントは同じだ。た。ぼうグラフのかくポイントをつかて、クラスの人のおすすめのメニューをぼうグラフにしたい。

自分の考え



友だちの考え

- すみまでぬる。
- はみ出さない。

問題

次の表は、じゅんさんたちが1か月間に、図書室からかりた本の数です。ぼうグラフに表しましょう。

かりた本の数

名前	本の数(さつ)
じゅん	8
はな	5
はるき	7
まなみ	4
合計	24

(さつ) かりた本の数

